

か イ ハ や く

創立25周年記念号

昭和47年5月26日

題字・先代 藤井得三郎氏

組合創立

二十五周年に想う

東京都家庭薬工業協同組合

理事長 津村重舎

本年度も前途多難な年であるようである。ドルショックもある程度吸収したようにみえるがショックの結果は一、二年しなければ本当に現われないものと言わっているので、業界もなおく見つめ警戒しなければならぬことと思われる。

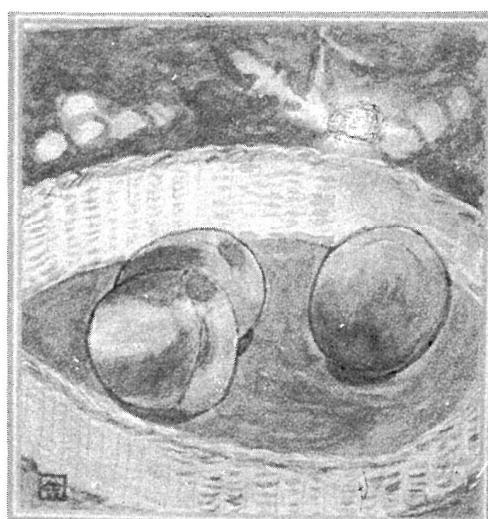
それとは関係なく薬業界一般に不況のムードが溢れている。何故だろう。薬は飲み過ぎてはいけない——今よりひかえろということになり、飲まない方が良いのだというようなことにでも通じるのだろうか。当然薬は飲み過ぎはよくないが、飲まないでよいということもない筈である。

否、薬局でよく聞き、且自分でも使用法をよく読んで十分効果的に使うべきであると思う。

現在まではとかく悪いことのみ伝えられたのではないか。この点は自

ら反省することはし、良いことは良いと声を大にして言うべきである。例えば辺地に旅して、日本の大衆薬がどんなに有効であるかは大方の人々が経験しているところである。こんな経験等を紹介することも理解を深める一つの方法であろう。又薬の製造についてからが大衆はこれ程嚴重であろうとは知られていないようであ

ら反省することはし、良いことは良いと声を大にして言うべきである。運営については随分熱心なものであり、且つスペシャリストでもある。会員の皆さんは大いにその知識を利用されるべきではないだろうか。組合は全会員のものであり、善意をもって利用すべきである。その為に園部君という優秀な事務局があるのである。



界に投資するような国になつたのである。氏から、我々も機会が重あれば外国にも目を向けそのチャンスを津ねらうべきではないだろうか。国際的なおつき合いと理解の物為に最近国際委員会が出来たのだからこそれも大いに利用願いたいものである。あまり固い話なので恐縮であるが—。

毎日ドルだゼネストだといつていはあるし、広告の規制もまた然りである。人間尊重の社会にするのならばセルフメディケーションももつと理解されるべきである。我々のなすべき仕事は沢山あり、それだけ将来に望みがあると言うべきである。

それについても東京家庭薬の理事の桜を見て思い出したが、加治川の桜

を初めて見た時の感激は未だ忘れられない。あの花のトンネルと何キロかに亘る桜の木とその幹が川面にしたされた様と水の色と遠山と何から何まで満点であり感激であったが近年堤の損傷が激しいので切ってしまったという事である。植えられたのが

大正七年頃だと記憶しているが何十年か何百年かの歴史からみれば短かいように思われるかも知れないが何と惜しいことだろう。これと同じようのが半蔵門から千鳥ヶ淵へかけた桜である。狭い日本だから仕方ないかもしれないが何とも我慢しき

れないものを感じるものだ。国宝、重要文化財でなくとも堤が切れて大害をなしたとは言え方法はなかつたのだろうか。思えば今年もワシントンの桜は美しく同じ所に咲いている事だろう。

風葬

玉置石松子

告白や顔は雲雀に向けします

組合マーク選定について

審査委員長

中尾義隆

四月二十二日午前十一時組合会議室に於て審査員堀内氏、建林氏、友田

氏、中尾の四名（歌橋氏欠席）集合組合事務局より園部、村川両氏参加

お手伝い願い応募作品約四十点を慎重審議の結果、三宝製薬編集室

田辺豪一氏の作品平和の象徴鳩が薬皿秤の糸をくわえている図を一位として其の他佳作四点を選び決

上位に決定を見た次第であります。

何分商品マークや企業マークと異り組合の性質上其のマークが一見業界以外の一般大衆にも理解され

好感のもてるもの等、仲々むつかしい条件があり各委員共その点苦心した次第です。

選定方法は先づ委員各自が一位二位佳作の順に抽出したものを作計し上位より五点を選出した訳で決定まで種々意見はありましたが最後の詰に及んで満場一致、以

川端康成逝く

春星に消えし文士の喉仏

風葬の願ひ蒲公英のわた飛翔

墓交る経文誦する貌にして

円虹や青き海みて蟹壳らる

雷迅し裸馬踏みこみし花時計

自然と人智の融合を意図して小鳥で生命—健康—家庭のイメージをテン

三位 鈴木日本堂宣伝部 中村源三氏

佳作 中村化成産業 佳作 堀内伊太郎商店 佳作 救心製薬
堀内伊太郎氏 塩野ヒロシ氏



一位入選作 三宝製薬 田辺豪一氏

当選者のことば

三宝製薬・編集室

田辺豪一

自然と人智の融合を意図して小鳥で生命—健康—家庭のイメージをテン

三位 鈴木日本堂宣伝部 中村源三氏

佳作 中村化成産業 佳作 堀内伊太郎商店 佳作 救心製薬
堀内伊太郎氏 塩野ヒロシ氏

東京都家庭薬工業協同組合
創立二十五周年記念

永年勤続表彰者
座談会

思い出す

「ことじごも

出席者（発言順）

村川 清（組合事務局）

飯田 安彦（吉松商店）
根元 武夫（金冠堂）

吉沢 哲良（堀内伊太郎商店）

下山 富太郎（ニチバン）

宮田 博行（三宝製薬）

園部 明（組合事務局）

編集部

友田 真二（三共ゾーキ）
玉置 新治（千葉三郎次商店）

比留間 章（救心製薬）

於 組合会議室

友田 今日は皆様お忙しいところお集り下さいまして有難うございます。家庭薬業界は非常に歴史のある業界でございますが、終戦後協同組合法による家庭薬の現組合ができるから二十五周年になりましたのでこれを記念する行事のひとつとして永年勤続の方々の表彰をさせて戴く事になりました、その代表の方々にお集りいただきて、座談会を企画致しました。これは家庭薬組合の広報機関誌「かていやく」の編集部が企画したわけでございます。

では最初に組合の事務局に創立以来居られます村川さんから家庭薬組合創設当時のお話を伺いたいと思いまます。村川さんどうぞ……。



村川 清



村川 清

私は昭和十九年の一月に家庭薬統制組合に入社しまして、その後昭和二十年に家庭薬統制組合の職員の一部と家庭薬懇話会の職員が一緒にになって東京都家庭薬組合が設立され、新川に事務所を持ちまして、私もそちらに移りました。そのあと一年たちまして、昭和二十二年の五月三十日に只今の東京都家庭薬工業協同組合という名称に変ったわけでございます。

私の特に印象に残る事を二、三申しあげてみたいと思いますが、まず

第一にこの東京都家庭工業協同組合というものの創立した意味は、実は厚生省へ行ったりしなつちゅう奔走したわけですけれども、その後昭和二十四、五年頃だったと思いませんが、統制がはずされまして、まア一応組合の事業内容が大分変わったわけです。で、私いたしましてなんです。で、私いたしましては、このままでは組合の存在も危ぶまれるという考え方もありまして、昭和三十年に組合融資をいろいろ考えまして、現在の商工組合中央金庫に一日参して、いろいろ聞きまして、約三年ほど組合員へ組合から貸し出しを実施してまいりました。それでもまだそれも全部御満足いかなかつたかもしだせんが、組合創立の意味においては、できるだけの力を注いだわけです。その後、昭和四十年でしたか新川からこの銀座へ移る時に、こういう経験が無かつたもんですから、むこうを売却して、こちらを購入

いう点において、自分なりにできるだけの努力だけはしてきたつもりでございます。今後ともよろしく御指導をお願い致します。

友田 有難うございました。組合の生きた歴史ともいえる村川さんから、組合に勤めて以来のいろんなお話し、それから組合の意義、そのようなお話を伺いました。皆さんお入りになった時には、まだ戦争中あるいは終戦直後の混乱期というような事でございますが、飯田さん御入社当時のお話、それから戦後のお話を少しお聞かせいただけませんか。

飯田 そうですね、私は昭和十一年の四月に小児解毒散・エス球本舗吉松商店に入店したわけでございま

す。先代の御主人にお世話になつて、専ら製品の製造また宣伝に努めておりましたわけでございます。宣伝のひとつのまあ私が経験した事をお話をしたいと思います。小児解毒散・エス球の説明書、チラシですね。玉置



氏彦 安田 飯

薬業聯合セツトまた特売を買って下さったお店に宣伝に行くわけです。まず薬局の仕切印を百五十枚位捺印して、その薬局の指示によつて近所を配布して歩くわけですが、当時はアツシといいますか、吉松商店のハッピを着てこれを配布して歩いたわけですが、帰つて来ますと、いまチラシを見て買ひに来たという有難いお言葉をいただくお店もありました。まあ非常にうれしかったこともありますが、一日十二軒位薬局をまわつて、東京府をはじめ近県をずっと三、四年位、製造の合間にそつといた仕事をしておりました。やがて大東亜戦争勃発のために昭和十七年の九月から南ボルネオ・パリクパンの海軍燃料廠の病院の勤めをや

つておりました。そうして最初二ヶ年という契約期間でありましたので、十九年の夏に現地を出てまいりましたのですが、たまたま戦況が悪化になりましたために、フィリピンと台湾の間のバシー海峡で魚雷攻撃のために一回とも船が沈んでしまいました。そこで、一回は八時間程泳いで、どうにか救助船に拾つてもらつたわけでありまして、運良く命だけはあって内地に戻つてまいりました。

内地では大船の海軍病院に勤めて

おりましたのですが、そういった苦労もあつて、体をちょっと悪くして

長野県・諫訪の実家で静養している間に終戦を迎えたような次第であります。

そして先代のお言葉もありましたので、終戦の翌年九月に吉松商店に復職したわけでありまして、終

戦直後の原料・材料の無いおりに家庭薬組合のお世話になりまして、小児解毒散・エス球を一貫して現在続

けておるようなわけであります。先

代が亡くなつてから今年で七回忌になりますが、現御主人の下で微力で

あります。現御主人の下で微力であります。勤めさせていただい

て今日に至つておるようなわけであります。

友田 どうも有難うございまし



氏友 田真

んの御入社時代のお話を……。

根元 私は昭和十五年六月に金冠

堂に入社致しました。その当時は株式ではなくて合資といつております。

私は前にハイヤーの運転手をしておりまして、それでガソリンが少

くなつてから金冠堂に入つたわけ

なんです。入つた当時は今のように沢山製品は無かつたのですが、木炭車

で問屋さんに配達しております。

そしてそのうちに軍需工場に指定さ

れまして、そうなつてからはいろな

生きて帰れるということになりました。そして、私はボツボツ下の方にさがつたわけです。途中は随分苦労しました。

上海に着きました、二十一年の六月でした。か船で九州の鹿児島に上陸しました。そこから汽車で東京の上野駅に着きました。汽車から降りて家に帰ろうかどうしようかと迷いましたが、駅にあつた地図を見ました。

たところ焼けた所は黒く塗つてあります。そして、金冠堂のあつた所まで全部黒く塗つてありました。そこでどうにもならないという事で仙台に帰つて三日位おりましたが、東京に友達もいましたので、東京の方へ出て来て三ヶ月過ごし、七月に支那大陸を

行きました。南京であまり喉が渴りますが、戦前からこういう薬局の開拓に努力されたというお話を、非常なつたのです。終戦の一ヶ月前に、二年頃だったと思うのですが、私が病気になりました。そこで度々爆撃も受けましたけれども、運が良かつたのか長沙まで無事に参りました。長沙で終戦になつたのですが、その時には生きて帰れるか死んでしまうのかわからなかつた……。

その時に知っている方に会いました
て、金冠堂はどこへ行ったのでしょうか
うかと聞いたところが錦町からちょうど入った所に居りますという事で
行ってみましたら、丁度社長をはじ
め全部新潟の方に居って、今晚帰つ
て来るという事でしたので、友達の
家に泊つて翌日行つたら良く帰つて
来たということで、まあ私も身体が
まいつおりましたので、一応、田
舎に帰りまして一ヶ月程休んでおり
ました。その後東京に出てきても食
料やら家やら大変だから新潟の方に
行ってくれと言われました。新潟の方
は昭和十九年に私が召集になって
から軍の命令で強制疎開をさせられ
ていました。新潟県は北蒲原郡で、
そこで最初はキンカンの工場を建てる
ようにと敷地やら建物やら全部で
きていたのですが、むこうに全部で
きないうちに終戦になつたので、また
買つた土地にガスが出たのでそれ
では何かガラス製品でも始めようとい
う事で始めたんですけども、そ



氏 夫 武 元 根

んなわけでまアうまくゆきませんで
したけれどもやつたんです。そこへ
まア家もあるし食物も沢山あるから
じゃあそっちへ行きましょうという
ことで、仙台から新潟へひとりでま
りました。三ヶ月程してボンボン
落着きましたから家族を呼びました
。そのうちに瓶をやって何もをや
つても、職人はいないしうまいか
ないもので、魔法瓶をやつたらどう
かという話が出て來たんです。

それで大阪から職人を呼んできて
魔法瓶を始めたんです。そこに私は
昭和三十五年頃まで十三年間程居り
ました。すぐ東京へ帰れるような予
定でおりましたが、そのうちに社長
は手を引いて私だけそこに残つて他
の人任せで東京の方でキンカンを
始めたのです。私は工場や敷地、家
庭で全部処分しましてから、東京へ行
ったのが三十五年でした。

それからまア私、キンカンの事は
何もわかりませんので、始め工場の
方をやつて二年位してから、じやあ
が工場長あと三人位しか居なかつ
たわけです。そこで作業を始めて二
年になつたので、まあ一応退職して
十四年に軍需工場だったものを買い
取りまして自白工場を作つたので
勝敗で負けたんですけども……。

ます。



氏 良 沢 哲

友田 どうも終戦後にはお薬の他
にも多角經營をやって居られるとい
うお話を伺いまして、有難うござい
ました。それでは堀内の吉沢さん。
吉沢 私は、この組合が二十五周年
年という事で、私の入社と丁度同じ
であります。一緒に歩んで来わけで
すね。組合そのものは私あまり知ら
なかつたのですが、終戦後入社しま
して、今までずっと二十五年工場ば
かりに居つたわけです。私の入社し
た当時は御承知の通り統制時代で、
私共の主原料の水飴とかもう時効に
なつてゐるから言っても良いと思ひ
ますが、澱粉を闇で買ってきまして
自分の所で水飴だとかを加工した
り、製造したりそういう事をやつて
おりました。当時は工場は今の専務
のところに資生堂の工場がござい
まして、そこで初めて野球をやつた
んですよ。二十三年のたしか十一月
は一番若い方でした。当時は全部集
め九人しかいなかつたんですけど、私
はなかつたかと思うんですが、私はそ
の常務の山崎なんかが選手といつて
はおかしいメンバーですけれども、
うちはどういうわけか強かつたんで
す。それで決勝戦までいたんだ
す。資生堂の化粧品関係の会社に決

材とひとりでもって帳面付けか
仕入、製造と、ほとんどやつてきた
わけです。三十九年に現在の東村山
の工場、私共村山工場と言つております
が、一部完成しまして、私はそ
こで従業員を集めまして、それから
ずっと建築ばかりやつておつたわけ
です。四十二年に大体完成しまし
て、現在工場の仕事をやつております
す。正直言つて外の事は知りません
し、営業の事は全然口下手なもんで
すからだめですし、そういうことば
かりやつておつたわけです。組合関
係では二十三年にはじめて組合の野
球大会があつたんですね。

その時には大井の今阪急デパート
のところに資生堂の工場がござい
まして、そこで初めて野球をやつた
んですよ。二十三年のたしか十一月
じやなかつたかと思うんですが、私はそ
の常務の山崎なんかが選手といつて
はおかしいメンバーですけれども、
うちはどういうわけか強かつたんで
す。それで決勝戦までいたんだ
す。資生堂の化粧品関係の会社に決

そういう事でまあ野球を通して組合というものを知っているぐらいで、業務的な事は何も知らないんですよ。まあそういう事ですと工場だけを歩いてきたんです。

友田 どうも水餃をなめていたせいかな、野球に強かったのは(笑い)どうも有難うございました。それで下山さん。



氏 太富山 郎

下山 私はジャリで終戦になりまして、まる一年たしまして内地に帰つて来て、それでニチバンに入りました。当時は日絆工業株式会社といふ名前でした。入社したのが二十一年の十一月、やはりほぼこの組合と同じ年月日で、知らないうちに二十五年もたつてしまつて、この間も社長に言われまして改めてぼやぼやしていました。

当時は日絆工業株式会社といつて、その位の品種の製品だったのですが、そこで入りましてお前一体何をやるんだということで、私は軟膏の油をひとつやつてみましようという事で研究をやっておりました。そのうちに欲がでまして、ひとつ製薬でもやろうじゃないかという意見が出まして仲間と一緒に、当時アメリカで発表されましたニトロ・フランの研究に従事しました。ところがそろそろ完成して製品の良いやつが出来て「フランシリソ」という名前

って日絆工業株式会社となりました。絆創膏を製造する会社ということで、日本絆創膏製造とかそういうような案が最初にありました。けれどもそれを略して日絆工業株式会社という名にしました。その後関係で大体戦争当时でございますので、歌橋製薬所というのが有機溶剤を使わない絆創膏の製造をやっておりまして、当時はガソリンの一滴は血の一滴と言われた時代でありますのでその歌橋製薬所が母体になりました。当時は日絆工業株式会社ができたおりまして日絆工業株式会社ができた結果、当時まだ進駐軍というものがおりまして、手紙は皆んな検閲されただけであります。そこには印刷セロハン・テープがはつてあります。それじゃうちはくつつく物が得意だからという事で、セロハン・テープを始めようということになります。そして、仲間でいろんなタイプのものを使つたわけです。それを担当してやつたわけです。それで私はその当時ビニールを主体にしたセロハン・テープを研究してお

りましたが、一応いけるだろうといふことでスタートをきつたわけになります。それから私、その仕事につき現場に行きました。家庭薬の業界で、医薬品の売上げが二十五パーセント位に下つてしまつたので、再検討しようということになりました。当時セロハン・テープ等を造る機械というものがございませんでした。こうすれば出来るはずだという可能性から出発しまして、機械化をしましたが、うまく当りまして、一応マスプロで成功して以後東京工場の製造を担当しておりました。そのうち大阪に行つて、それが現在のニチバンの方針になつておるわけであります。そこで太刀打ち出来なくなつたので、やはりくつづくもの専門にやろうというものが、急に安くなりまして、とても太刀打ち出来なくなつたので、やはりくつづくもの専門にやろうというものが、急に安くなりまして、とても太刀打ち出来なくなつたので、やはりくつづくもの専門にやろうというものが、急に安くなりまして、とても太刀打ち出来なくなつたので、やはりくつづくもの専門にやろうというものが、急に安くなりまして、とても太刀打ち出来なくなつたので、やはりくつづくもの専門にやろうというものが、急に安くなりまして、とても太刀打ち出来なくなつたので、やはりくつづくもの専門にやろうというものが、急に安くなりまして、とても太刀打ち出来なくなつたので、やはりくつづくもの専門にやろうといふことで、また方向転換したような次第で、それが現在のニチバンの方針になつておるわけであります。そこまでそれでは何をやつたら良かろうか

友田 本当に家庭薬と言われた絆

創膏の技術というものが発展して、今やワッペンまでいっているわけでありますね（笑い）。非常に良いお話を伺いました。それでは宮田さん。

宮田 私が三宝製薬に入社しましたのは、丁度終戦の年の十一月十三日で、それから數えますと二十六年五ヵ月位になりますか、最初十三日ですから給料は二十日締めですから最初にもらいました給料が確かに三円五十七銭、その当時は何んにもできなかつた。（笑い）当時は統制時代でありまして皆さん御存知だと思いますが「トフメルA・B軟膏」の二本立てで毎日のように生産に追われおりました。出来上った製品は玉置さんとか大木さん、当時薬統といつておりましたが、その方に納めました。当時運搬には牛車が主として使われ「お前上乗りしてゆけ」という事で、牛に引かれて善光寺参りではありませんが、神田の方まで、テクテクと荷物の運搬をしたこともあります。その後統制が撤廃したのが、今、現在我社の主力製品となつていて「エフレチン坐薬」なんです。これは今部長をやっておりました中という者が研究しておりまして、まあ私等は体の良いモルモットで大変尾篭な話ですが、試作した物

を肛門に挿入し三十分位後に便意の有無に関らずきばって、これを出して溶けるか溶けないか、確かめるといまして、何んだかんだ自分なりの希望を託して何かやろうかなという気持もあつたんですが、そのうちに何年かたちまして、私も適令期になりました。そこで、私が適令期になれば、固然でもだめ、柔らかくてもだめと、非常に注文が難かしいのです。感を修得したベテランが詰めるわけです。が、実際造つた物を一日置きますと相当固くなります。そんなことで丁度詰め易い固さにほどかなければなりません。これを温湯であたためてから練るわけです。固いとお小言をくうわけです。柔らかいと今度は詰めてからダラダラと溶けてしまう。そういうような事で、女の子に追いまわされながら四苦八苦したわけです。（笑い）そのうち段々と品種も殖えてきまして、現在七十品目位ですか、その間殆んど無我夢中で、結婚した当時は私共の会社は実は…、話が前後しますけれども、男は二十七才までは結婚しても経済的な裏付けも無いということで…。ところ

私の今日は無かつたのではと自分自身現在思っております。その後ずっと工場関係におきました。話は前後しますが、当時ベテランの女子従業員がおりまして、トフメル軟膏は全部ヘラで詰めるわけなんです。ところが薬もヘラにしてもその固さに對して、まア彼女等に言わしむれば、固くてもだめ、柔らかくてもだめと、私がおりまして、とにかく工場関係においては、とにかく工場関係におりまして人と口をきくという事は苦手として誰か尋ねて来ますと逃げまわつたようなわけでしたね。それが何年かやるとくらか慣れてきましたが、最近はとにかく处方の改正とか物価騰貴の激しい時ですかねも何年かやるとくらか慣れてきましたが、最近はとにかく処方の改題等、私等では常に湯気の出るような新しい製品を供給する事を立前としていますので、あまりランニング・ストックというものを置かないのです。そのため資材関係としては、余ざず満さなければいけない。しかもタイミングもはずしてはいけないという事で、その点日夜頭を悩ましているような状態です。

友田 有難うございました。皆様の入社当時から今までの歴史というものが、すなわち会社の、現在の歴



氏行博宮田

史の経過になつてゐると思います。

うですね。

今日の若い方との断絶があるといういろいろのお話も出ておりますが、こういう事につきまして、後輩に望みたい、そういうようなお話を少し伺つてみたいと思います。若い方が比較的多い会社というと……。

宮田 私共はいま現在女子従業員が十名位です。

友田 そうですか、金冠さんの所は社長が独特の方針をもつていらつしゃるとか伺つておりますが……。

根元 昔は良くやりましたけれども、今は民謡の方が忙がしいので、（笑い）でも良く社員の事を心配してくれます。若い者にもゴルフをやらせたり、今日あたりもボーリングで、ボーリングは毎月一回、私共もおかげで毎月一回ボーリングをやります。社長が気を配つてみています。

友田 社長が非常に気を配つておられますね。おたくの場合は会社自体が家族的なムードで良くいっておるというお話を伺つておりますが、特にその他に若い方に望む事がございましたら……。

根元 私は若い人に別に……。う

ちの社員にはこうした方が良いんじやないかというのは、あまり無いよ

うお話を……。

吉沢 そうですね。私共従業員が二百名ちょっと居るんですけど、うち



なんかは若い人が多いんじゃないかなと思うのですが、私なんかはどちらかと言うと、若い人の部類じゃないかと思って一緒になつてやつている

友田 それはどうも失礼しました。（笑い）

吉沢 若い人に望むと言つても、ち

ょつと出ないんですね。私は良くいろんな会合なんかに出ても、よく今のが若い人はというのを聞きますが、私の事を言つておるんじゃない時によア私の生まれが信州ですかから、終戦後日白工場の時代、あら、うちの社長の関係も信州が多くかと思つて（笑い）。私は入社したが、入った時には浅田飴というネーム・バリューは当時から大きかったんですけれども、私も相當に大きな会社だと思って入ったところが従業員が十名ちょっととしか居ない。仕事をやつてもひとりきりでやる仕事ですからいやになつてしまいまして、もう若い時ですから尻をまくつて帰つちゃおうかという気持が起きた時もあるんですよ。たまたま十一月頃じゃなかつたかと思うのですが、先代の社長がですね、家に来ないかという事で最初なんだろうと思つておつたら、全部従業員を集めて御馳走してくれたんです。それでずっとまた誕生日に毎年呼んでくれたんですね。で、私共そういう家庭的なものが、無かつたので、これからも

思うのですよ。家庭的なものが、組織組織という事で、あらゆるもののが、私の事が言つておるんじゃない時によア私の生まれが信州ですかから、終戦後日白工場の時代、あら、うちの社長の関係も信州が多くかと思つて（笑い）。私は入社したが、入った時には浅田飴というネーム・バリューは当時から大きかったんですけれども、私も相当に大きな会社だと思って入ったところが従業員が十名ちょっととしか居ない。仕事をやつてもひとりきりでやる仕事ですからいやになつてしまいまして、もう若い時ですから尻をまくつて帰つちゃおうかという気持が起きた時もあるんですよ。たまたま十一月頃じゃなかつたかと思うのですが、先代の社長がですね、家に来ないかという事で最初なんだろうと思つておつたら、全部従業員を集めて御馳走してくれたんです。それでずっとまた誕生日に毎年呼んでくれたんですね。で、私共そういう家庭的なものが、無かつたので、これからも

思ふうのですね。どこの会社でも無いと思つたもんだから……。ですからそいつものが欠けているので、断絶するいは今の村山工場のこういうものを御覧になつて、若い方の変遷といふお話を……。

吉沢 うのうのうな氣持の繋りというものが、無いんじゃないかと思うのですね。若い人の方にも責任はあるし、むしろ我々の責任の方が大きいんじゃないかと思うのですが……。

比留間 先程来のお話にあります大東亜戦争の始つた頃に私は生まれたものですから、どうもお話をがく通じないんですが、世代の断絶という事についても、私も若いんですね。で、私共そういう家庭的なものが、無かつたので、これからも



氏 章 間 留 比

いうものが会社の中に強かつたわけですね。で、私共そういう家庭的なものが、無かつたので、これからも一回思い直してやろうという気持がしたんですが、現在はそれが無い

ひとつのテーマを追つて行く場合一 応、そつの無いレポートはできるのですが、何故そうするのかとか、それをおこういうふうに変えたらどうなるのだろうかといった、何か考える所が多いうふうに感じる人が多いように感じられます。私が一番古い年代なのをこりうのはおかしいんだけれども……。何か仕事に対してキザな言い方ですけれども、本物の仕事をいうか、自分を打ち込んでいるという感じが乏しいように感じる時があるんですね。そういう点、数世代離れておられる皆さん方がどのように感じておられますでしょうか……。

下山 私、もう現場を離れまして五、六年になりますので、若い人、特に最近入つて来る人とあまり付き合いがございませんが、時々話合つてみますと、私達と話合つて居る人は一般的でないかも知れませんが、本人達はやる気があると受取れます人が多いと思います。責任をもつてやらせればやるべきではないかと思うのですね。ですからこのテーマをやるからお前の考えでやつてみろと渡せばやると思いますよ。組織上の管理者が若い人の仕事をまとめるんだという気持でやれば、本人達は良くやると思うんですね。

友田 むしろ中堅層に問題が有るところだと思います。私はそういうふうに

友田 感じますね。

下山 老年層にも問題が有るんじゃないですか（笑い）、下山さんがおっしゃられたように勤労意欲というものが決して無いのではない矢張り組織というのに支配されると、自ずと行動範囲も限られてきま

すし、まいかに働き易い土壌を造つてやるかという考え方にしていかなければ、難しいんじゃないかと思います。まあとにかく昔の人と比べれば根性の問題だとか、学生運動等にみられるようにナンセンスな意見を入れないと、いわゆる比較的自分が分等の意見を聞いてくれという態度はあるんですね。例えば他の人、上司の意見というものをあまり聞き入れないという風潮が全般的にあるんではないかと、私はそう思います。

玉置 治新



玉置 治新

友田 いまお話をありましたように家庭薬、家庭薬という言葉は厚生省の方では無いわけですが、それでも……。いわゆる大衆薬と申しますか、昔から消費者に非常に millones de personas que no compran medicinas en farmacias. Muchas personas prefieren las farmacias de barrio o las farmacias de la calle porque son más convenientes y económicas.

友田 飯田さん、だいぶこう荷物を運んでいますか、生産から販売と、いろんな面で活躍になつておられるわけですから、今のそういう側から見て来つつあるようだと思つて

友田 セールスだと、いろいろ御接触が多いと感じます。私は製造のかたわら都内や地方を歩いておるわけでありますけれども、年配の方は頗馴じみが多いですね。

友田 私は製造のかたわら都内や地方を歩いておるわけでありますけれども、段々若い人に接したりかなればならないと思つておられます。そういう点で若い方はなかなか歩いてやるかという考え方にしていかなければ、難しいんじゃないかと思います。まあとにかく昔の人と比べれば根性の問題だとか、学生運動等にみられるようにナンセンスな意見を入れないと、いわゆる比較的自分が分等の意見を聞いてくれという態度はあるんですね。例えば他の人、上司の意見というものをあまり聞き入れないという風潮が全般的にあるんではないかと、私はそう思います。

友田 いまお話をありましたように家庭薬、家庭薬という言葉は厚生省の方では無いわけですが、それでも……。いわゆる大衆薬と申しますか、昔から消費者に非常に millones de personas que no compran medicinas en farmacias. Muchas personas prefieren las farmacias de barrio o las farmacias de la calle porque son más convenientes y económicas.

友田 浅田館さんも最近は薬以外に栄養食品ですか、多角化を計つておられるという事で、そういう面か

ら家庭薬の将来は……。

吉沢 そういった大きな問題になりますと難しいですね。昨年です

か世界大衆薬会議、私共の専務も出席したのですが、帰って話を聞いた

んですが、欧米は比較的大衆薬とい

うものに政府なんかが力を入れてい

るという感じで、日本は現在みると逆に締付けられている感じ、締付け

られているというと語弊があると思

うんですけど、日本は現在みると逆に締付けられている感じ、締付け

られているというと語弊があると思

た形で、高級化へという形にしていかないと、と思いますがどんなもんありますかね。

友田 消費者の思考を先取りしていくと。そこに家庭薬の良さがあるんだと思いますね。

比留間 私、先程も申し上げましたように、この業界に入つてまだ十年そこそこので、よくわかりませんが……。例えば黒部にダムが出来れば、いわゆる社会的貢献度といふものがハッキリ出てきますが、我々の業界のこういう仕事が社会的な貢献度が無いかというと、お医者さんと同様に大きく貢献していると思う

うので、一般的に薬業、時に家庭薬と、うと低く見られて、いるよう

な感じがするのですが……。

園部 行政面と、理解とい

うか、当然薬の自己治療と、医家向

けの二本立てでいくはずですよね。

それは、やはりいろいろな条件が

ありますけれども、まあ大衆に親し

み易い、安全性も非常に高いし戦前

の売薬時代から何して、法律的にも

決して劣らないわけですね。品種

の推移を見ても、また東南アジア

方面のそういうものの反響を見ても

生活程度が徐々に上ってきているわ

けですね。国民の生活程度に合わせ

ね。これが自己治療と医者も不足しておりますし、そういうような方向で絶対に家庭薬というものが伸びて、いくと国民の健康保健衛生の抜本を



氏 明 部 國

担つて、いるという考え方で対策を考えていかれる事が必要ではないかと思

いますね。自己主張が必要ではないかと思うのです。

村川 家庭薬は割合値段が安過ぎ

ますね。従つて卸屋さんの側からす

れば、値段が安いだけに相当数売つ

ても新薬を売るよりもマージンが少

ない。自然に家庭薬の方を疎かにす

る、疎かにするというと語弊がある

んですけれどもそういう傾向が相当

にみられるんじゃないかと思うので

す。ですから卸屋さんを見ても、本

当の家庭薬だけで卸屋さんの商売を

している店はそんなに無いんじゃない

かと思うのです。

友田 まあとにかく家庭薬につきましては、非常に安全性の高い、し

かも消費者に便利に買われている薬策も必要ではないかと思うのです。

れだけに今後医薬分業とか、そういう事が現実の問題になつた場合、おそらく相当伸びる可能性があると我々は期待しておりますし、またそ

うあらねばならないと思います。皆様方会社の本当の中核として、ある

いはリーダーとして、長年にわたつて業界に寄与してこられたわけです。今後ますます御健勝にまた後輩の御指導、それから業界の発展のためにおつきし戴きたいと心からお願ひ致します。有難うございました。

以上



(カット 玉置弘三氏)

叙勲の榮に浴して

株式会社 金冠堂

取締役社長 山崎栄二

この度、图らずも叙勲の榮誉に浴し、勲四等旭日小綬章を授受致しました。

私ごとき者が、この様に晴れがましい榮誉に浴する資格は、最初から持ち合せて居りませんので、叙勲については、毛頭も考えて居りませんでした。



まいりました。

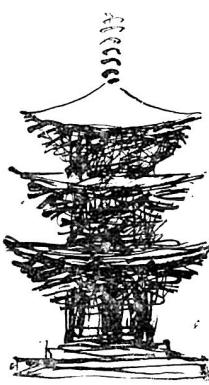
その間、幾多の艱難と、苦境を乗り越えたこと等を想い起しますと、

今日の私は、私一人の力で築きあげたものではなくて、数えきれない多勢の方々が、私へのご協力があつてこそ、出来たものだと思います。

改めて、それ等の方々と一緒に、叙勲の榮誉の喜びを、分ち合いたい

と思ひます。

叙勲と老人は、一般的に連想され



〈委員会から〉

総務委員会

これも、一重に、厚生省を初めとする、官界の皆様や、家庭薬製造業者の同業の皆様の絶大なるご支援と、ご尽力の賜と、深く深く感謝申上げる所でございます。

昨秋、弊社の創業四十五周年を迎えて、ささやかな宴を催しましたが、顧りみますに、四十有余年間、キンカン一途に、人生の殆んどを過して

易いものですがお陰様で私の健康状態は壮年と全く同じであります。

これからも、益々業界の為に、そ

して社会の為に、微力ではございま

すが、出来る限りの力を振りしほつ

て、活躍する所存でございます。

で、一層の御指導、御鞭撻をお願い申し上げます。

又多数の皆様方から、早速祝電や

ら、お祝のお言葉を頂戴し、無量の感激にひたって居ります。

制を考慮して左の事項につき運営を企図するものであります。

1 昭和四七年度予算について

昭和四七年度予算については、家庭薬業界として密接な関係にある中国の漢方、生薬の実状を調査把握することは真に肝要と思われる所以薬事委員会を中心として視察団を派遣する経費を

新たに計上する外、本年は組合創立二十五周年に当たりますので行事

経費の計上、前記諸問題に対応する九委員会の活動経費の計上

に厳しい環境に置かれている現状で上げる所でございます。

販医薬品の公取の規制強化等本年度再評価の推移、広告の規制強化、再来年も昨年度に引き続き厳しい諸状況で此等の問題に十分対処し得る体

針であります。

2 役員の改選、褒賞、表彰について

役員については本年は改選の年に当たりますが、今後任期の二ヶ年は当組合にとって重要な

期間でありますので、理事、監

事にご就任の方々には組合運営について一層のご尽力をお願い

致す次第であります。

褒賞、表彰については夫々の段階に於ける功績に報いるため慎重に選考の上関係当局に内申

致す所存であります。

以上昭和四七年度運営方針の大要について申しのべましたが、その実施については組合員各位のご尽力に俟つ外ないところでありますて、重大なる時期に当り一層のご健闘を祈るものであります。

(堀 泰助)

薬事委員会

昨年度は家庭麻薬の割当量の削減、「医薬品の製造（輸入）承認申請における資料の提出について」の請に伴う諸経費の増加は己むを得ないものと存じます。

以上の諸要素を十分考慮して適正なる本年度予算を編成する方

家検定料の値上、ビサチンの一般用

薬での使用禁止、トランキライザー

・卵胞ホルモン・黄体ホルモン製剤の要指示薬指定、第一次薬効評価開始等当組合にとつても重要な問題が起り、当委員会はその都度会合を開き、日薬連と連絡をとりながら厚生省に対する要望書の作成や、組合員に対する情報の伝達等を行なつて来た。

新年早々に第一次の薬効評価が始まり、三月十五日には第一次の資料提出期限も終り、判定基準も示された。その結果が注目される。

当組合が主力製品とする一般用医薬品については、本年度中に再評価される可能性はないが、どのような評価方法と結果が出されるか注目しなくてはならないと同時に、今から準備を行なわなくてはならない。

本年度の予定としては、昨年度通り、日薬連の薬効委員会、安全性懇談会、薬制委員会、一般用医薬品協議会等と密接な連絡をとりながら、諸種の薬事行政に対する対処方法の検討や業界の利益擁護に力を注ぎたい。

又本年度中に中華人民共和国へ、生薬原料の需給状況、生薬製剤の製法、漢方と西洋医学の併用、家庭薬の市場調査等の目的で視察にゆく予

定である。各委員は分担をきめ、時に十分研究した上で出発し、業界に役立つ報告が出来るようになる。

(藤井康男)

販売対策委員会

昭和四十五年暮の医療用医薬品への添付廃止要請に続いて起つた薬価基準の引下げ期待と、体質的な原因もあっての一般市場価格の大混乱が起つて、いるまつた大中に始まつた昨

年度は、比較的健全な流通秩序を保つてゐるわが大衆薬業界にも直接、間接に大きな影響を与えました。その中で「永年のあか落し」と報じられた大卸業者の内整理はいつもながらの見事な一致団結の力と基本的に正しい業界の姿勢とで最悪事態を抜け出す事に成功し、御承知の通りそ

れを引き継がれた経営陣の絶大な努力によって、その業者は予想外の回復を見せて、います。これをきっかけとして流通段階は安定方向に向つていますが、まだ色々な困難な事情が存在して、います。本年度こそこの問題に積極的に取組み、一つ一つ解決してゆくべきでしよう。

そこで本年度の当委員会の具体的な目標としては第一に企業機密が尊

重される事は当然としても、出来る

かぎりオープンに企業内の諸資料を提供していただき、更に卸業者の協力も得て、それを総合し、分析して

メーカーとしていかなる形で流通機構の健全化に協力すべきかを検討し、実施するよう協議するとともに、メーカー並びに卸業者双方から

代表者数名ずつを選んで、定期的に情報交換の場をもつ事によって一層効果的に推進して行きたいと考えています。

(津村重孝)

広告委員会

セルフメディケーション（自己治

療）の歴史はきわめて長い。およそ三五〇〇年前より人類は薬草等の生薬を用いて病気を治したといわれている。大衆薬はこのセルフメディケーションの長い歴史に培われて出来

上った人間の英智の資産といえる。

現在我が国の大衆薬は欧米をしき水準に達し内容形態共、大衆の自己治療にとって、きわめて親切に考えられてつくられていることは、これまでのはげしい企業競争がもたらした結果の明るい一面といえる。しかししながら最近の薬に対する不信感として、ごく一部の薬害に対する不信感はその競争結果の暗い反面をあらわしている。マスコミのセンセーショナルな取り上げ方が不信心をもたらした直接

十分認識し、一方では大いに自信をもつて業界をリードする構えをもつと共に今までのしきたりだけに甘んじないで、批判に耐えうるような

体制を検討し、その期待に答えるため十分自肅し、且つ凡ゆる意味で委員会の活動について特に協調していただくことをお願い致します。

原因ともいえるであろうが、実需を無視した量販主体の高度成長が不信感の原因となっている点は見逃すこととは出来ない。医薬品がその商品性格からして画期的な新薬が開発されない限り、年々大幅な量成長を続けることに矛盾がある。二〇〇〇を越すメーカーと四万種に及ぶ薬剤がこのせまい日本の中でひしめき合って自然淘汰の時期が到来したことは当然であり、むしろ過ぎた感がしないでもない。しかもこの自然淘汰を期待する者は為政者であり、消費者であり、また薬業界自身ですらもある。我々はいたずらに既得権を主張する愚はやめて、自らを再検討した上、大衆薬としての真価をあらゆる角度から堂々と世に表明すべきである。そして自然淘汰に生き残るものにとって、如何に「信頼」が大切か、如何に「コミュニケーション」が必要であるかを知らなければならないであろう。

昭和四十七年度の広告委員会活動

は大衆薬の「信頼」の線に沿つて行く方針である。まず第一に大衆薬の広告に対する当組合各社の意思統一を図ることである。少なくとも東京の家庭薬各社の広告姿勢が一

貫したものでなければ、大衆薬の信頼感は得られないであろう。第二に大阪名古屋地区等の家庭薬グループ、日薬連広告審議会及び日大懇弘報委員会と情報交換及び意見交換を十分に行なうことであり、この際新薬直販業界の大衆薬をも含めた大衆薬業界統一行動を計るべきである。第三に監督官庁である厚生省、都庁の担当官とのコミュニケーションを十分行なうことであり、少なくとも年一回は恒例として担当官との懇談の場をもうけることである。

第四に今後益々重要な問題となる広告表現に関する良否の問題点の研究検討を十分行なうことで、製品の持つ真価すなわち利用価値を如何に正しく、しかも解り易く伝える表現方法は創作であり創造であることは大きな主張点ではなかろうか。第五に広告業界との連絡を密にすることであり、特に新聞業界との意思の交流は大切である。

第六に組合員各社の広告活動に資する為、講演会又は映写会を企画し視野を広くすることに役立せたい。

第七に四十四年より毎年編集をつけている広告統計資料を内容検討の上、四十七年度版を印刷配布する予定である。

大阪名古屋地区等の家庭薬グループ、日薬連広告審議会及び日大懇弘報委員会と情報交換及び意見交換を十分に行なうことであり、この際新薬直販業界の大衆薬をも含めた大衆薬業界統一行動を計るべきである。第三に監督官庁である厚生省、都庁の担当官とのコミュニケーションを十分行なうことであり、少なくとも年一回は恒例として担当官との懇談の場をもうけることである。

第四に今後益々重要な問題となる広告表現に関する良否の問題点の研究検討を十分行なうことで、製品の持つ真価すなわち利用価値を如何に正しく、しかも解り易く伝える表現方法は創作であり創造であることは大きな主張点ではなかろうか。第五に広告業界との連絡を密にすることであり、特に新聞業界との意思の交流は大切である。

第六に組合員各社の広告活動に資する為、講演会又は映写会を企画し視野を広くすることに役立せたい。

第七に四十四年より毎年編集をつけている広告統計資料を内容検討の上、四十七年度版を印刷配布する予定である。

第八に月一回開く例会には、委員会以外の広告多量実施の会社広告担当責任者に臨時出席を願つて、種々参考となるご意見を拝聴したいと担当責任者に臨時出席を願つて、種々参考となるご意見を拝聴したいと想っている。

以上が主たる広告委員会活動であるが、十分な活動成果をあげる為には組合員各社のご理解あるご協力を十分にお願い申し上げる次第である。

(太田 昭)

労務委員会

三月二七日の労務小委員会で新年度の業務運営および方針について検討し予算案(年十八万円—前年度と同額)として提出しておりますので、その大綱につき申述べたいと存じます。

労務委員会の業務活動は前年度と同じく労務情報交換(予算六万円)を年十回程度行なうことを中心として、津村幸男副委員長に御世話願っておりますが、この労務連絡会も御連絡願います。

以上が本年度計画のあらましですが、今後の研究課題として理事会小委員会の場で提起されている事項について述べますと、

一、東西大衆薬メーカーの労務情報交換の必要性について、必要とする方法。

二、新薬メーカー(药品業界全般)との情報交換、労務研究、講演会の共催との問題。

三、情報交換上必要な様式の改

賀、講演会(予算七万円)については各社から必要性から講演テーマをご提出願い委員会で検討決定することに望ましいやり方であると考えますが、先般の小委員会では六月頃「賃金」に関する講演会を開催することにし講師、日時について太田冒散山下委員にお願いして交渉中であり確定次第お知らせいたします。その際は理事の方々始め各社から数名の御参加を予めお願い申し上げておきます。次に参考図書整備(予算三万円)については各社からご推薦乃至希望によって整備をすすめて参る計画です。図書は組合事務所に書棚を設けますが堀内伊太郎商店の村上委員に推進をお願いしておりますので、御希望、推薦については同氏に御連絡願います。

以上が本年度計画のあらましですが、今後の研究課題として理事会小委員会の場で提起されている事項について述べますと、

一、東西大衆薬メーカーの労務情報交換の必要性について、必要とする方法。

二、新薬メーカー(药品業界全般)との情報交換、労務研究、講演会の共催との問題。

三、情報交換上必要な様式の改

